2026年4～9月の中古車登録・届け出台数、新車需要の高まりで4年ぶりマイナス　環境性能割廃止で　海外流出も影響

中古車流通　2026年10月14日 05:00　SNSで共有:

日本自動車販売協会連合会（自販連、髙田靖久会長）と全国軽自動車協会連合会（全軽自協、赤間俊一会長）が10月13日に発表した2026年度上期（4～9月）の中古車登録・届け出台数は前年同期比0.5%減の315万25台だった。「自動車税環境性能割」の廃止に伴う減税効果で相対的に割安となった新車に、中古車需要の一部が流れたとみられる。加えて、中古登録車の海外流出が過去最高だったことも響き、前年実績を若干下回った。上期のマイナスは4年ぶり。

自販連が公表した上期の中古車登録台数は同1.1%減の177万875台となり、4年ぶりに下回った。3月末で環境性能割が廃止されたこともあり、上期の新車販売（登録車と軽の合計）は同5.1%増の229万2064台に伸長。税制変更の恩恵が大きかった登録車で、新車と中古車の販売に明暗が分かれた。

上期の輸出抹消台数は同3.0%増の83万2513台となり、統計を開始した06年度以降で最多だった。中古車輸出は登録車が多いことも、逆風になった。

一方、全軽自協がまとめた上期の中古車届け出台数は同0.3%増の137万9150台。軽の中古車も税制変更などの影響は出たものの、わずかに上振れし、2年連続でプラスを維持した。

9月の中古車登録・届け出台数は前年同月比4.0%減の52万5366台となり、2カ月ぶりに下回った。登録車は同4.6%減の29万5436台、軽は同3.2%減の22万9930台にとどまった。



中古の登録車が伸び悩んだ

2026年４～９月 中古車登録･届け出台数

車種			４～９月累計	９月
登録車	乗用車	普通	972,331（▲0.7）	164,681（▲4.4）
		小型	560,139（▲2.4）	93,567（▲4.9）
		小計	1,532,470（▲1.3）	258,248（▲4.6）
	貨物車	普通	86,309（1.2）	12,962（▲8.7）
		小型	104,337（0.5）	16,974（▲3.2）
		小計	190,646（0.8）	29,936（▲5.7）
	バス		6,906（▲5.3）	849（0.0）
	その他		40,853（1.1）	6,403（▲1.7）
	合計		1,770,875（▲1.1）	295,436（▲4.6）
軽自動車	乗用車		1,103,196（0.3）	185,053（▲3.0）
	貨物車		275,954（0.2）	44,877（▲4.2）
	合計		1,379,150（0.3）	229,930（▲3.2）
中古車合計			3,150,025（▲0.5）	525,366（▲4.0）

※単位:台、カッコ内は前年同期比･前年同月比増減率%、▲はマイナス